

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170300299		
法人名	有限会社 ヴァンヴェール		
事業所名	グループホーム こもれび		
所在地	佐賀県鳥栖市田代昌町462-1		
自己評価作成日	平成29年10月9日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成29年10月26日	外部評価確定日	平成29年11月22日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>当事業所は、バリアフリー設計ユニット棟と、民家改修ユニット棟の2ユニットあります。 ご家族の面会時間は特に制限しておらず、希望があれば同室であれば宿泊も常時可能。お食事と一緒に可能です。毎月の行事にもご家族へ参加のお誘いをし、一緒に楽しんで頂いています。個人の意向を最大限添えるようなケアを基本とし、無理強いしない生活を送ってもらえるよう支援いたします。また、日常生活のケアに関しても、ご自分で行えることはしていただき、日頃の調理補助や洗濯補助など、個人が「人」として「尊厳」をもって本人らしく生活できるよう支援してまいります。地域密着のため、顔なじみの方も多く、当時の思い出は話など談笑される光景も見られています。様々な病気や介護度も幅広い為、本人の体調に合わせたレクリエーションも行っています。</p>
--

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は長崎自動車道鳥栖インターのすぐ側に位置し、周りには、民家や企業の事業所が立ち並んでいる。2ユニットを有する事業所は古民家改修型のユニットと新しく建てられたユニットが庭続きに隣接している。古民家改修型ユニットの玄関回りには、利用者に馴染みの設えが残されており、以前からの家庭的雰囲気が漂っている。代表者は職員とのコミュニケーションを密にして信頼関係を構築し、一丸となってサービスの向上を図っている。職員は理念にも掲げている「思いやりの心」を常に心し、利用者が安心してその人らしく暮らせるように支援している。なお、職員間でもお互いを思いやり、困った時には助け合いながら、人材教育と日々の支援に取り組んでいる。自己評価も全員で実施しサービスの向上に活用している。</p>
---

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念に基づいて、住み慣れた町で安心した生活、安楽で笑顔の絶えない日々を送れるよう支援している。	運営理念に基づいて、住み慣れた町で安心した生活、安楽で笑顔の絶えない日々を送れるよう支援している。	「思いやりの心を大切に住み慣れた町で安心した生活が送れるように支援いたします」を理念としている。管理者が職員の採用時に説明をし、また、ミーティング等でも話し合い実践に努めている。事業所内の目に付く場所に明示もされている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	区の役割(集金、お宮の清掃、草取り、お祭り)には参加できるようにしている。入所者へも希望があれば参加するようにしている。	区の役割(集金、お宮の清掃、草取り、お祭り)には参加できるようにしている。入所者へも希望があれば参加するようにしている。	職員は近隣住民と顔馴染みで、挨拶や言葉を交わし合い、野菜等を頂くこともある。自治会にも加入し、地域の清掃やお祭り、公民館行事等にも可能な限り参加している。事業所の行事に近隣住民や保育園児を招くこともある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターや近隣の居宅介護支援センター等との交流、当施設に来訪された際の介護相談や助言、支援を行っている。また、定期的に認知症の方への接し方などの研修などに参加し、知識を深めている	地域包括支援センターや近隣の居宅介護支援センター等との交流、当施設に来訪された際の介護相談や助言、支援を行っている。また、定期的に認知症の方への接し方などの研修などに参加し、知識を深めている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催。地域包括支援センター、民生委員、区長、介護あんしん相談員さん、ご家族や入所者へ呼びかけ、参加していただき情報交換している。内容は各棟スタッフへ報告、必要時は話し合いを実施、サービス向上に努めている。	2ヶ月に1回開催。地域包括支援センター、民生委員、区長、介護あんしん相談員さん、ご家族や入所者へ呼びかけ、参加していただき情報交換している。内容は各棟スタッフへ報告、必要時は話し合いを実施、サービス向上に努めている。	運営推進会議は2ヶ月に1回、民生委員、区長、行政職員の参加を得て開催されており、それぞれの立場から積極的に意見や情報提供がなされ、サービスに活かしている。家族の参加はないが、管理者は家族の参加の必要性を理解し毎回参加を呼びかけるなど、今後の課題として捉えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	鳥栖広域介護保険課及び、市役所高齢福祉担当課とは密に連絡体制をとっている。サービス担当者会議やケアプラン内容、業務に関して人員配置等の相談を行っている。	鳥栖広域介護保険課及び、市役所高齢福祉担当課とは密に連絡体制をとっている。サービス担当者会議やケアプラン内容、業務に関して人員配置等の相談を行っている。	管理者は行政の窓口を訪れることも多く、情報交換や課題解決のための相談等を密に行っている。2ヶ月に1回、あんしん相談員の訪問も受け入れている。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員へ、スタッフミーティングや集団研修、外部研修の参加で理解している。身体拘束が必要になった場合は、ゼロに向けて危険性が生じた場合、代替になるものをスタッフ間で話し合い、拘束をしない援助を行っている。	全職員へ、スタッフミーティングや集団研修、外部研修の参加で理解している。身体拘束が必要になった場合は、ゼロに向けて危険性が生じた場合、代替になるものをスタッフ間で話し合い、拘束をしない援助を行っている。	研修会や職員会議等で身体拘束の弊害や禁止行為の周知を図り、拘束のない支援に取り組んでいる。昼間、玄関は施錠しておらず、自由に出入りができ、利用者の外出気配時には、さり気なく付き添い見守っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員、スタッフミーティング及び外部研修などで知識を深めている。個人の尊厳を守り、日々の業務の中でも心身、言葉の虐待がないよう注意を払っている。外傷など見られた場合は、原因追及、対応策を考え、今後に備えている。	全職員、スタッフミーティング及び外部研修などで知識を深めている。個人の尊厳を守り、日々の業務の中でも心身、言葉の虐待がないよう注意を払っている。外傷など見られた場合は、原因追及、対応策を考え、今後に備えている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修やスタッフミーティング、資料の回覧などで理解している。	外部研修やスタッフミーティング、資料の回覧などで理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行い疑問点を尋ね解決してから、署名、捺印をいただいている。	十分な説明を行い疑問点を尋ね解決してから、署名、捺印をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や意見箱の設置をしている。また、契約書や重要事項説明書には、その旨を明記している。	運営推進会議や意見箱の設置をしている。また、契約書や重要事項説明書には、その旨を明記している。	面会時に繰り返し声をかけ、要望や意見等を聞いており、面会の少ない家族には電話、手紙等で訊ねている。要望等が出された時には、スタッフ間で話し合い、速やかに対処している。毎月、「こもればいり」を作成し、利用者の様子を家族に届けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティング(月1回)にて。必ず職員へ意見を述べる時間を設けている。その際すぐに検討、解決につなげ、共有するようにしている。また、議事録を作成し、参加不参加問わず熟読してもらっている。	スタッフミーティング(月1回)にて。必ず職員へ意見を述べる時間を設けている。その際すぐに検討、解決につなげ、共有するようにしている。また、議事録を作成し、参加不参加問わず熟読してもらっている。	代表者は日頃から、職員とのコミュニケーションを図っており、職員の要望や提案等を聞いている。また、管理者は日常の会話や毎月開催の職員会議で、職員の意見や提案等を聞き運営に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各手当(夜勤・役職、資格など)など細分化した給与明細となっている。役職や役割に応じた研修への参加の促し、その際は勤務時間としてあてている。	各手当(夜勤・役職、資格など)など細分化した給与明細となっている。役職や役割に応じた研修への参加の促し、その際は勤務時間としてあてている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ケアの向上をはかるには、気持ちの余裕も必要で、スタッフの許容量が越えていないか、観察することも必要。メンタルヘルス対策で一人ひとり相談できる機会を作っている。外部研修へも公平に参加できるように努めている。	ケアの向上をはかるには、気持ちの余裕も必要で、スタッフの許容量が越えていないか、観察することも必要。メンタルヘルス対策で一人ひとり相談できる機会を作っている。外部研修へも公平に参加できるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	鳥栖地区介護保険課主催の研修会参加希望者は必ず参加できるように配慮した勤務割りをしている。また、個々でも勉強会に参加、同業者との交流をつくり、質の向上をはかっている。	鳥栖地区介護保険課主催の研修会参加希望者は必ず参加できるように配慮した勤務割りをしている。また、個々でも勉強会に参加、同業者との交流をつくり、質の向上をはかっている。		

## II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の情報収集を行い、安心した生活が送れるよう不安・要望等を傾聴している。また、利用前には体験利用や宿泊もしていただいている。居室の雰囲気、他の入居者との交友間の観察を行い、本人に合った環境を整えるようにしている。	本人の情報収集を行い、安心した生活が送れるよう不安・要望等を傾聴している。また、利用前には体験利用や宿泊もしていただいている。居室の雰囲気、他の入居者との交友間の観察を行い、本人に合った環境を整えるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約前に事前にご家族より要望を伺ったり、現在生活をされている場所に訪問、きちんと顔を合わせて話し合いをしている。	契約前に事前にご家族より要望を伺ったり、現在生活をされている場所に訪問、きちんと顔を合わせて話し合いをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ず本人・家族と面談し、その時点での日常生活動作や認知症自立度を見極め、医療や他のサービスの必要性がある場合は、その旨を説明・紹介している。	必ず本人・家族と面談し、その時点での日常生活動作や認知症自立度を見極め、医療や他のサービスの必要性がある場合は、その旨を説明・紹介している。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に本人が出来る事、完璧を問わず「すること」の喜びを分かってもらいたい。その能力をずっと継続し、活かしていけるケアを行っている。	常に本人が出来る事、完璧を問わず「すること」の喜びを分かってもらいたい。その能力をずっと継続し、活かしていけるケアを行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と外出・外泊・通院介助をしていただいたり、面会時には近況報告を行っている。なかなか面会に来られない家族とは電話やお手紙にて連絡をとっている。その際にもご本人の心身の状態を理解していただくよう努めている。	家族と外出・外泊・通院介助をしていただいたり、面会時には近況報告を行っている。なかなか面会に来られない家族とは電話やお手紙にて連絡をとっている。その際にもご本人の心身の状態を理解していただくよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	これまで生活されてきた地域の話をついたり、ご近所の方が定期的に来訪されたりしている。また、電話などによる定期的なコミュニケーションもとれるようにしている。利用者によっては携帯電話の所持もされている。	これまで生活されてきた地域の話をついたり、ご近所の方が定期的に来訪されたりしている。また、電話などによる定期的なコミュニケーションもとれるようにしている。利用者によっては携帯電話の所持もされている。	職員は利用者の馴染みの人や場所等を把握しており、友人の訪問時には湯茶を供して、ゆっくりと過ごして頂けるように配慮している。また、馴染みの神社やスーパーに出かけたり、受診の帰りに、自宅側や馴染みの駅前を通ったりもしている。携帯電話を所持されている方には、家族等との電話を支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の相性を見極め、普段の生活やレクリエーションにおいてADL・IADL・QOL向上につながるよう支援している。	利用者同士の相性を見極め、普段の生活やレクリエーションにおいてADL・IADL・QOL向上につながるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時や契約終了の場合も、ご家族をフォローできるよう、いつでも相談や支援に努めている。(退院時の再契約等の相談など)	入院時や契約終了の場合も、ご家族をフォローできるよう、いつでも相談や支援に努めている。(退院時の再契約等の相談など)		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日常的にケアの記録や言語以外のコミュニケーションから本人本位のケアができるよう支援し、各スタッフも把握できるようにしている。	日常的にケアの記録や言語以外のコミュニケーションから本人本位のケアができるよう支援し、各スタッフも把握できるようにしている。	日常の会話や表情から希望や意向等を把握している。言葉による意思の疎通が困難な場合には、表情や職員間の情報交換等から本人本位に検討している。	

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所にあたって生活歴や既往歴の把握、アセスメントシートの熟読を行っている。以前から介護保険のサービスを利用していた場合は、当時のケアマネジャーより情報開示の依頼をしている。	入所にあたって生活歴や既往歴の把握、アセスメントシートの熟読を行っている。以前から介護保険のサービスを利用していた場合は、当時のケアマネジャーより情報開示の依頼をしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	上記に加え、日々の介護記録や毎日の業務申し送りで現状の把握を行っている。必要時はスタッフミーティングを行ったり、専門職同士のサービス担当者会議を開催している。	上記に加え、日々の介護記録や毎日の業務申し送りで現状の把握を行っている。必要時はスタッフミーティングを行ったり、専門職同士のサービス担当者会議を開催している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	専門職、介護職、家族、利用者を含めたカンファレンスを行い、その人らしい生活ができるようなケアプランの作成をしている。困難事例の場合は、介護保険課担当者へ相談したり、担当者会議を開催している。	専門職、介護職、家族、利用者を含めたカンファレンスを行い、その人らしい生活ができるようなケアプランの作成をしている。困難事例の場合は、介護保険課担当者へ相談したり、担当者会議を開催している。	本人及び家族の意向を確認し、関係者で話し合い、本人本位の介護計画を作成している。計画に添って日々モニタリングを行い、2ヶ月ごとの担当者会議、6ヶ月ごとの定期的の見直しを行っている。状態に変化が生じた時には、速やかに見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、モニタリングにて日々の記録、実践を確認。その後サービス担当者会議、再アセスメントの実施、ケアプランの作成をこなしている。	個別記録、モニタリングにて日々の記録、実践を確認。その後サービス担当者会議、再アセスメントの実施、ケアプランの作成をこなしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療機関送迎、往診の依頼、入退院時、転院時の介助など行っている。	医療機関送迎、往診の依頼、入退院時、転院時の介助など行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣からのグループホームの理解が難しく、なかなか地域を囲んでの関わりが少ない状態である。	近隣からのグループホームの理解が難しく、なかなか地域を囲んでの関わりが少ない状態である。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時にならず医療面における日常及び緊急時の対応を説明している。(常時オンコールにて対応、緊急時の入院などの対応をしている。)	契約時にならず医療面における日常及び緊急時の対応を説明している。(常時オンコールにて対応、緊急時の入院などの対応をしている。)	本人及び家族の希望される主治医の受診を支援しており、主治医の変更も家族の希望でなされている。通院時に家族の同行が難しい時には、職員が同行し、適切な受診ができるように支援している。協力医(歯科も)による定期的な訪問診療も行われている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の記録、回診ノートにて情報の共有をしている。状態変化な看護師へ報告、指示を仰いでいる。必要時は往診や受診の指示、訪問看護の指示を受けている。	日々の記録、回診ノートにて情報の共有をしている。状態変化な看護師へ報告、指示を仰いでいる。必要時は往診や受診の指示、訪問看護の指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の情報提供、入院時の状態の把握、退院にあたっての状況は医療機関のソーシャルワーカーと連携をとっている。	入院時の情報提供、入院時の状態の把握、退院にあたっての状況は医療機関のソーシャルワーカーと連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族が希望した場合は、こちらでの看取りケアの指針をもとに主治医、家族、スタッフとの密な情報共有を行っている。実際に看取りのケアも行っている。	ご家族が希望した場合は、こちらでの看取りケアの指針をもとに主治医、家族、スタッフとの密な情報共有を行っている。実際に看取りのケアも行っている。	契約時に「重度化や終末期に係る対応の指針」を説明し、意思の確認を行い、同意書を作成している。重度化や看取り介護を要する場合には、改めて、家族の意向を確認し、主治医を始め関係者と連携し、できる限りの支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応方法など、ミーティングを交え確認している。ご本人の基本情報も事前に記入し、緊急に備えている。	緊急時の対応方法など、ミーティングを交え確認している。ご本人の基本情報も事前に記入し、緊急に備えている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応方法など、ミーティングを交え確認している。ご本人の基本情報も事前に記入し、緊急に備えている。消防署の指導にて半年に1度訓練を行っている。避難誘導に関しては、運営推進会議でも報告済み。	災害時の対応方法など、ミーティングを交え確認している。ご本人の基本情報も事前に記入し、緊急に備えている。消防署の指導にて半年に1度訓練を行っている。避難誘導に関しては、運営推進会議でも報告済み。	年に2回、消防署の協力を得て、日中の火災を想定した通報、消火、避難誘導等の訓練を実施しているが、夜間想定した訓練には至っていない。また、近隣住民の訓練への参加協力を得るまでにも至っていない。万一に備えて、水やおむつを備蓄している。	職員だけの避難誘導の限界を具体的に確認し、地域住民の参加協力を得た、昼夜想定した非難誘導等の訓練に取り組まることが望まれる。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>						
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩であり、どのような話でも傾聴し、羞恥心を伴いやすい排泄などの声かけは特に気を使っている。呼びやすいからといってあだ名やちゃん、くん付けで呼ばないように注意している。介護の基本の言葉かけを毎年見直してもらっている。	人生の先輩であり、どのような話でも傾聴し、羞恥心を伴いやすい排泄などの声かけは特に気を使っている。呼びやすいからといってあだ名やちゃん、くん付けで呼ばないように注意している。介護の基本の言葉かけを毎年見直してもらっている。	接遇研修も行なわれており、職員は利用者を目線を合わせ、優しい言葉かけをしている。利用者が出来ることは手を出さず、ゆっくりと対応している。気になる言葉かけ等が行われた時には、管理者を始め職員間で注意し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レベルに応じてどうされたいのかを質問方法を変えている。(オープンか、クローズドクエスチョンか)本人の表情を観察したり、真意をくみとるようにし、自分でできることはしていただくようにしている。	レベルに応じてどうされたいのかを質問方法を変えている。(オープンか、クローズドクエスチョンか)本人の表情を観察したり、真意をくみとるようにし、自分でできることはしていただくようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の身体状況やペースに合わせて支援している。すべてのケアにおいては無理強いせず、その意思を尊重し臨機応変に対応している。	日々の身体状況やペースに合わせて支援している。すべてのケアにおいては無理強いせず、その意思を尊重し臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	普段の服もご本人の好きな色や服の形を選んでもらっている。衣料店においてもスタッフと一緒に向かい、自ら選び購入。整髪については、訪問理美容サービスを利用し、染髪も希望される方はされる。	普段の服もご本人の好きな色や服の形を選んでもらっている。衣料店においてもスタッフと一緒に向かい、自ら選び購入。整髪については、訪問理美容サービスを利用し、染髪も希望される方はされる。		



自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のメニューのリクエストを聞いて要望に応じたり、スタッフや利用者でお手伝いをしてもらったり食事までの過程を楽しんでいただいている。食後も茶碗やテーブル拭きも、強制ではなく、したいという方や、もじもじと言い出せない方にも声をかけをし、みなさんと協力して手伝っていただいている。	利用者のメニューのリクエストを聞いて要望に応じたり、スタッフや利用者でお手伝いをしてもらったり食事までの過程を楽しんでいただいている。食後も茶碗やテーブル拭きも、強制ではなく、したいという方や、もじもじと言い出せない方にも声をかけをし、みなさんと協力して手伝っていただいている。	利用者の力を活かして、食材の下拵えや食器拭き等の後片付を一緒に行っている。食事の時には、食事介助の職員は着席しているが、他の職員は回りで様子観察等を行いながら、時折、声掛けをしている。食事は利用者の咀嚼力や嚥下力に合わせて準備している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者によっては一日の水分量を細かく測定し、少ない場合は看護師へ報告している。また、食事の嚥下状態に応じて食事形態の変更も常時行っている。食事制限のある方への配慮も強化している。	利用者によっては一日の水分量を細かく測定し、少ない場合は看護師へ報告している。また、食事の嚥下状態に応じて食事形態の変更も常時行っている。食事制限のある方への配慮も強化している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床後、食後は必ず口腔ケアを行い、自分でできない方へは無理なうがいを促すことなく、口腔ケアスポンジにて口腔内を清潔に保ち、拒否のある方は、できるタイミングをはかり行っている。また、定期的に訪問歯科診療も行っている。	起床後、食後は必ず口腔ケアを行い、自分でできない方へは無理なうがいを促すことなく、口腔ケアスポンジにて口腔内を清潔に保ち、拒否のある方は、できるタイミングをはかり行っている。また、定期的に訪問歯科診療も行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護日誌に排泄記録を記載、本人の排泄パターンの把握をする。状態に応じてオムツになる事もあるが、できるだけトイレでの排泄を行っている。過剰な介助にならないよう配慮している。	介護日誌に排泄記録を記載、本人の排泄パターンの把握をする。状態に応じてオムツになる事もあるが、できるだけトイレでの排泄を行っている。過剰な介助にならないよう配慮している。	排泄パターンや利用者のサインを把握し、可能な限り、トイレでの排泄を支援している。失敗された時には、本人を傷つけないように配慮し、速やかに対処している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量、食事量の把握、便秘のサイクルを観察し、看護師を中心に排便困難時の対応を把握。医療的なケアだけでなく、食物繊維の豊富なバランスのとれた食事や適度な運動も心掛けている。	利用者によっては、午前中伏臥位にし、腹圧をかけて排便を促す試みも行い、1年が過ぎている。以前よりも腹満が減り、排便も出やすく、腹囲も減少した。夜間良く休まれるようになってきている。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	本人へ入浴の声かけをし、希望に添えるようにしている。皮膚状態や体調には細心の注意をはらい対応している。また、本人が入浴したいような雰囲気作りも取り組み、季節に合わせてミカン風呂やお茶風呂、竹炭風呂、入浴剤を入れて温泉の気分を楽しんでいただいている。	本人へ入浴の声かけをし、希望に添えるようにしている。皮膚状態や体調には細心の注意をはらい対応している。また、本人が入浴したいような雰囲気作りも取り組み、季節に合わせてミカン風呂やお茶風呂、竹炭風呂、入浴剤を入れて温泉の気分を楽しんでいただいている。	本人の気持ちを汲みながら、週2～3回の入浴支援を行っている。入浴を拒否される時には、無理強いせず、時間を置いたり言葉かけを工夫して支援している。また、入浴剤等を使用して入浴を楽しんでもらえるように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者によっては、ベッドで横になれるよりも、ソファでくつろぎながらうたた寝される方もおられる。その際は他の利用者に配慮しながら支援している。	昼食後は必ず午睡をすることで、気分転換にもなり、午後からの利用者の体調も整えられている。夜間も良く休まれている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服ファイルをつくり、頓服時にもすぐにわかるようにしている。分からない時はすぐに調べられるようにしている。	内服ファイルをつくり、頓服時にもすぐにわかるようにしている。分からない時はすぐに調べられるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人が以前されていたこと、今ここの生活で活かさないか、工夫している。珠算や音楽鑑賞、手芸などいつでも楽しめる環境を整えている。	本人が以前されていたこと、今ここの生活で活かさないか、工夫している。珠算や音楽鑑賞、手芸などいつでも楽しめる環境を整えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフ介助にてスーパーへ買い物へ行ったりしている。ご家族との外出はお行っているが、地域の方との外出支援は行っていない。	スタッフ介助にてスーパーへ買い物へ行ったりしている。ご家族との外出はお行っているが、地域の方との外出支援は行っていない。	天気の良い日には散歩やスーパーへの買い物、ドライブ等一緒に出かけている。また、庭続きの別棟のユニットへは、双方から、日常的に行き来がなされ外気浴の機会にもなっている。個人的な外出は家族の協力を得ながら支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お店での支払い時はできるだけ本人にしてもらっている。買い物でお金を払っておつりをもらう、お金を払う時に何がいくついるのかを考えてもらう事で社会とのかかわりを持たせた事の喜びを分かち合ってもらおう。	お店での支払い時はできるだけ本人にしてもらっている。買い物でお金を払っておつりをもらう、お金を払う時に何がいくついるのかを考えてもらう事で社会とのかかわりを持たせた事の喜びを分かち合ってもらおう。		

自己	外部	項目	自己評価／ユニットA( ) (事業所記入欄)	自己評価／ユニットB( ) (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	難聴の方がおられるため、代わりに手紙と一緒に書いたりしている。電話では、かける、切るの対応をし、お話しされている。年末は年賀状作成を皆さんで行い、返事が来たため大変喜ばれていた。	携帯電話を所持されている方へは、かけることが困難のため、かける、切るの対応を行っている。年末には年賀状の作成を皆さんで行い、返事が来たため大変喜ばれていた。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や季節のものをおいたり、共有の空間はエアコン、換気扇、カーテンなどで空調を整え、悪臭対策もしている。フロアは料理の音など生活感が出るように、利用者と楽しく会話ができるようオープンキッチンにしている。	玄関や季節のものをおいたり、共有の空間はエアコン、換気扇、カーテンなどで空調を整え、悪臭対策もしている。フロアは料理の音など生活感が出るように、利用者と楽しく会話ができるようオープンキッチンにしている。	古民家改修型のユニットの玄関回りには、利用者に馴染みの設えが残されており、以前からの家庭的雰囲気や漂っている。事業所内は掃除が行き届き、気になる匂い等もなく、居間に面した台所からの調理の音や匂いが五感を刺激している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	必ず自室で一日を過ごすだけではないので、ソファに横になってくつろいでいる方もおられる。テレビを囲んでのんびりとソファに座って観ている方もおられる。	少人数のくつろぎスペースをつくり、ゆったりと日光浴を楽しんでいただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅から使い慣れたものを持ってきてもらい、自宅の寝室と同じような配置をと、声掛けしている。また、無理な模様替えはせず、本人が安心、安楽に過ごしていただくよう支援している。	自宅から使い慣れたものを持ってきてもらい、自宅の寝室と同じような配置をと、声掛けしている。また、無理な模様替えはせず、本人が安心、安楽に過ごしていただくよう支援している。	職員は家族に利用者の使い慣れた馴染みの品の持ち込を働きかけ、居心地の良い居室作りを支援している。家族の写真や仏壇、利用者の作品、時計、テレビ、椅子等が見られる。安全な暮らしの見守り策として、入り口ドアの上部に鈴を設置している部屋も見られる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	すぐに介助をするのではなく、出来ることを活かした支援を行えるよう、手すりが近くにあるように整えたり、部屋を決めたりしている。	すぐに介助をするのではなく、出来ることを活かした支援を行えるよう、手すりが近くにあるように整えたり、部屋を決めたりしている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)				
※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します				
項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	○	1. ほぼ全ての利用者の
				2. 利用者の2/3くらいの
				3. 利用者の1/3くらいの
				4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○		1. 毎日ある
			○	2. 数日に1回程度ある
				3. たまにある
				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)			1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
		○	○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果		
		ユニットA	ユニットB	
		↓ 該当するものに○印をつけてください		
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目:9,10,19)	○	○	1. ほぼ全ての家族と
				2. 家族の2/3くらいと
				3. 家族の1/3くらいと
				4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)		○	1. ほぼ毎日のように
				2. 数日に1回程度ある
		○		3. たまに
				4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)			1. 大いに増えている
		○	○	2. 少しずつ増えている
				3. あまり増えていない
				4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○		1. ほぼ全ての職員が
			○	2. 職員の2/3くらいが
				3. 職員の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての利用者が
				2. 利用者の2/3くらいが
				3. 利用者の1/3くらいが
				4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	○	1. ほぼ全ての家族等が
				2. 家族等の2/3くらいが
				3. 家族等の1/3くらいが
				4. ほとんどいない